

時計づくりで培った技術で、精密部品および生活用品を製造。 社員一丸となって前進し、“モノづくりで絶対的優位”を目指す

リズムは令和2（2020）年、リズム時計工業にグループ会社の東北リズム、リズム協伸が加わり発足。祖業であるクロックをはじめとした生活用品のほか、超精密部品や接続端子を製造する。時計づくりの技術を展開して手がける、高精度なミクロン単位のプラスチック部品では、圧倒的な優位性を確立。今後もさらなる成長と技術の研鑽、市場の拡大を目指していく。



代表取締役社長 湯本 武夫氏

- 代表者 代表取締役社長 湯本 武夫
- 設立 昭和25年11月
- 資本金 123億7,284万円
- 従業員数 連結2,482名、単独463名
- 事業内容 精密金型、成形部品、接続端子部品、車載機器、情報機器、電子部品、クロック・ウォッチ、その他精密機器の製造、物流サービス、贈答・保険その他
- 所在地 〒330-9551 さいたま市大宮区北袋町1-299-12
TEL 048-643-7211
- URL <https://www.rhythm.co.jp>

長年「リズム時計工業」の名で、クロックメーカーとして歴史を刻んできたリズム株式会社。

同社の事業セグメントは、大きく分けてBtoB向けの「精密部品事業」とBtoC向けの「生活用品事業」の二つ。さらに精密部品事業は、車載関連や光学機器等に使われる超高精度なプラスチック成形部品を製造する“プレジジョン”と、自動車や家庭用電気機器、産業機器等に使われる“接続端子”に分けられる。生活用品事業は祖業であるクロックのほか、加湿器やアロマディフューザーなどの“快適品”を製造する。

「当社には、70年以上時計製造で磨き上げてきた精密部品をつくる技術があります。それをベースに、さまざまな部品製造を行っており、今はその事業が大きく伸びています。売り上げに占める割合は、精密部品事業が約75%、クロック・快適品・その他が25%になります」（湯本武夫社長）

令和2年、同社はリズム時計工業株式会社が母体となってグループ会社の東北リズム株式会社、リズム協伸株式会社の3社を統合し、社名を現在のものに変更した。それぞれの事業のモノづくりを深化さ

せながら統合によるシナジーを図り、成長をさらに急伸させていく青写真を描いている。

→ 時計製造の技術を軸に成長を遂げる

終戦間もない昭和21（1946）年。埼玉県南桜井村（現在の春日部市）の軍需工場跡地に「東洋のスイスを作る」と時計づくりでの戦後復興を掲げ、株式会社農村時計製作所が設立される。高い技術で製造される時計は、コンクール等で受賞するなど高評価を得ていた。しかし、事業は苦難の連続で、やがて会社は解散。新たに会社を設立し、事業は新会社が担うことになった。昭和25年、こうしてリズム時計工業が誕生する。

創業の翌年には、国産初のプラスチック枠時計を発売。昭和28年にシチズン時計株式会社、シチズン商事株式会社と技術・販売・資本提携を果たしたことで、一層技術力を高め、成長を加速させていった。

昭和52年、それまで金型づくりから製造まで行っていた会津工場を分社化し、リズム工機株式会社（後の東北リズム）を設立。リズム時計工業の部品製

造のほか、のちに時計部品の製造技術を生かしてカメラのレンズフォルダーやデジタルカメラ等の精密部品を手がけていく。

一方、親会社であるリズム時計工業は、平成元(1989)年にアメリカ、そして翌年香港に営業拠点を開設。中国工場、ベトナムに精密部品を製造するプレジジョン工場を立ち上げるなど、積極的に海外に進出していった。

平成23年には、接続端子の設計から製造まで一貫生産する協伸工業株式会社が同社グループに加わり、リズム協伸が誕生する。

そして令和2年に3社が統合した。

「これまでは各社独立して自社の道を追いかけていましたが、合併によって一体感が出てきて、全社一丸となって取り組む体制が生まれました」

➔ ミクロン単位の高精度な製造技術

同社の強み——それは、何とんでも創業時から培ってきた精密部品を製造する技術力、蓄積されたノウハウとデータベース、長年培ってきた現場の対応力にある。

まずプレジジョンでは、ミクロン単位(1,000分の1mm)の精度を極める精密プラスチック部品を製造する。これほど高精度な部品を手がける企業は数少なく、同社の強力なアドバンテージとなっている。

「例えば、当社が製造する車載カメラのレンズを収める鏡筒部品は、誤差2ミクロン以内とされています。プラスチックは日常の温度差で約1ミクロン収縮するので、実質1ミクロンしか許されません。つまり、それを割り込む精度で製造しないと基準値に収まらないのです。当社は何度も金型づくりを行ってテストを重ね、高精度な部品を製造する技術を磨いてきました。技術的な困難がありながらも挑戦を続け、プラスチックの極限を追求してきたのです」

強みはそれだけではない。一般的には金型製作とそれを使ったプラスチック部品製造は別々の会社で

行うのだが、同社は自社で一貫生産することで短納期、ローコスト、徹底した品質管理を実現。加えて製造ラインを自社で開発して生産システムを省力化、さらに安定生産に向けた自動機を製造するなど、製造技術と生産技術の向上を図っている。

こうしたモノづくりで生み出されるプラスチック部品は、デジタルカメラや監視カメラなどの光学機器、車載カメラの鏡筒、ドライブレコーダー、ドローン、医療機器、OA機器等の分野で使われている。また、これら



の製品に求められる精密な加工技術により直動ガイドの製造やプレス部品、インサート部品の製造も行う。

➔ 需要が急増する接続端子部品

精密部品事業のもう一つの 카테고리、接続端子は、タブ端子、ネジ端子、アース端子などの接続端子のほか、インサート成形品、コイル製品等を手がけ、さまざまな金属プレス製品の設計から生産までを一貫して行う。さらに自社で開発した300種類以上の製品に加え、用途に応じたカスタマイズ製品の設計、製造も行う。

製品は自動車（二輪・四輪）の電装部品や家電、OA機器、電動アシスト自転車、蓄電池、太陽光パワーコンディショナー、エレベーター等、あらゆる分野に採用されている。なかでも長年確かな技術と実績で顧客の信頼を得てきた自動車関連においては、多くの製造点数を担う。

「自動車はEV化が進むことで端子部品の点数が増えることが期待されます。また、中国のコロナ政策以降、空調機器等の製造が国内回帰し、それに伴い



左/アース端子、右上/ソレノイドコイル、右下/端子台

左/モバイルファン(小型扇風機)、中/加湿器、右/防災行政ラジオ

端子部品の受注も増えています」

同社は自動車市場のEV化を起爆剤に精密部品事業の製品を、まずは国内市場、そしてアジア、さらには欧州と世界市場に展開し、自社の成長を牽引させていく考えだ。

➔ 生活用品類は洗練されたデザインが特徴

生活用品事業では長年人気を集める掛け時計、置き時計等時計製品のほか、近年需要が高まる小型扇風機、加湿器、アロマディフューザー、タブレットやスマホを入れて浴室で動画などを楽しめる防水ケー

ス、防災行政ラジオ等、幅広いラインアップを持つ。

「防災行政ラジオは、自治体が各家庭に配って災害時に避難誘導できる行政無線を兼ねた仕様です。災害時の人命救助をサポートできる、社会に貢献する製品だと思っています」

同社のコンシューマー向け製品は機能性に富み、洗練されたデザインが特徴だ。例えば小型扇風機は、2重反転ファン構造で空気の束となった風を発生させ、小型ながら大風量を実現。シックなデザインでユーザーから人気を集めている。

加湿器は洗浄パーツを最小限に抑え、メンテナンスのしやすさを追求。さらに加湿の際、容器に雲海のような霧が発生するという見た目の楽しさも加えられている。ユーザーの評判は良く、2022年のグッドデザイン賞も受賞している。“くらしのリズムを整える”をコンセプトに、そこから生まれる体験や価値を生み出す製品づくりに力を注ぐ同社。長年のブランド力とクロックで開拓してきた販売網に加え、さらなる販路拡張に取り組み、市場の拡大を進めている。

➔ モノづくりを極め、成長を加速

時計製造でのモノづくりを礎に精密部品事業を大きく育ててきた同社。今後もプレジジョン、接続端子に注力し、海外にも市場を広げながらさらなる成長を目指していく。それと同時に生活用品事業においても製品ラインアップの拡充を図り、国内をはじめ中国などの海外へもその市場をさらに広げていく計画だ。

「基本はモノづくりで絶対優位を確保する。それを極めるために、今後もさまざまなチャレンジをしていきます。今年4月、私が社長に就任した際、『志を立ててひたむきに前進しよう』というメッセージを社員に伝えました。それが自然と社内風土として育まれていくようになればいいなと思います」

精密部品事業と生活用品事業の両輪で、モノづくりの道をひた走る同社。今後のさらなる成長に注目が集まる。